

令和7年度 城北高等学校 第1回学校運営協議会 概要

令和7年6月3日（火）18時30分～

於：校長室

出席者（委員） 敬称略

市岡沙織（市岡製菓株式会社 代表取締役社長）
大栗一敏（徳島市城西中学校 校長）
瀬戸俊夫（本校 PTA 会長）
多田穰治（アール・エスホーム株式会社 代表取締役社長）
寺澤昌子（本校 校長）
藤本真路（徳島大学 理事・副学長）
美馬持仁（鳴門教育大学 理事・副学長）
山崎眞弘（千松小学校 校長）

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 出席者紹介（自己紹介）
- (4) 会長及び副会長の選出・挨拶
- (5) 協議

①令和7年度学校経営方針・教育目標（案）について

- ・本年度のスクールミッション及びスクールポリシーと本年度の重点目標について、学校からの説明があった。昨年度、学校運営協議会で助言いただいた整理を行い、6月頃からスタートしたため、今年度は特に変更していない旨、報告した。
- ・スクールポリシーの内容を評価することは難しいが、成果を上げるために、実行した教育活動を検証するとともに、評価する具体的方法等について検討することが大事であるとの意見があった。
- ・城北高校の特徴や魅力について活発な意見交換が行われ、本年度の学校経営方針及び教育目標が承認された。

②本校の教育活動の概要について

- ・入学生の状況、卒業生の進路状況（進学・就職）、部活動の状況と成果、理数科学科の活動状況について、学校からの説明があった。
- ・今年度入学生の傾向や卒業生の進路状況、部活動の状況を踏まえ、学習・進路指導に関する意見交換、探究活動及び部活動のあり方について、委員からの提言があった。

③意見交換「本校のさらなる特色化・魅力化」について

- ・本校において最近力を入れていることとして、「DXハイスクール」、「国際交流」、「Meister Poster Project 2025」について、学校からの説明があった。
- ・次年度から実施を予定していることとして、「45分×7限授業の実施」、「北海道／韓国 選択制修学旅行」について、学校からの説明があった。
- ・校内で意思統一を図るべきこととして、「個別指導の『柱』となるものを設定」、「各学年の指導にキャッチフレーズを」について、学校からの説明があった。

いただいたご意見（一部）

- ・韓国への修学旅行では事前学習を充実させ、負の側面だけではなく未来志向で考えてほしい。
- ・45分×7限授業を実施した場合の放課後の時間の使い方を担任が把握することが必要。生み出した35分で総合的な探究の時間(p-time sp-time)だけでは足りない探究活動の補充にも活用してほしい。
- ・探究活動や部活動が進路獲得と深く結びついていることを生徒、特に1年生には丁寧に説明してほしい。
- ・主体性を身に付けた生徒の育成をめざし、計画を立てて物事に向かえるよう、城北独自のきめ細やかな指導を確立していく。それが保護者の方々にも認識してもらえるよう具体化が必要。